

高度専門医療機能の強化-1

妥協のない最高レベルの病院をめざし、手術室とICUの機能を強化。

手術室の充実

- 手術室を12室から19室に大幅に増やし、年間1万件以上の手術に対応できるようにするとともに、高度な手術を行える環境を整えました。
- ハイブリッド手術室を設け、増加傾向にある血管内治療に対応します。
- 手術支援ロボット(ダヴィンチ)や内視鏡下手術にも対応し、低侵襲の時代に即した手術機能も備えています。
- 日帰り手術、短期入院手術にも対応するため、麻酔外来周術期センターを併設しています。

ハイブリッド手術室

- 血管撮影装置と手術用寝台、手術支援機器、周辺設備などを統合したハイブリッド手術室を設置しました。低侵襲で高度な治療が可能です。
- 心臓外科、血管外科、整形外科、放射線科、脳神経外科、循環器内科などを中心に注目されています。

迅速性

高機能血管撮影装置を活用し、インターベンション手技と外科的手技を1室で行うハイブリッド治療ができます。

安全性

合併症などの緊急時の対応ができ、患者さんの移動が少ないワンストップ治療を行うことができます。

発展性

今までのオペ室内透視装置では困難であった術中3D画像の活用や高度なナビゲーション手術が実現しました。

GICU(総合集中治療室)の機能強化

- GICUを28床設けました(全室個室)。手術後(特に侵襲の大きな手術後)の患者さんや、当院に入院中で重症化した患者さんに対する治療機能を大幅に向上させます。
- 手厚い看護のもとで(看護配置2:1)集中的に管理する体制を整え、早期回復と一般病棟への早期転棟をめざします。
- 手術室、麻酔外来周術期センター、GICUが近接しており、患者さんの負担の少ない動線を整備しました。



麻酔外来周術期センター

- 麻酔外来周術期センターを新設しました。麻酔科医、手術室看護師、ME、薬剤師、事務職員などの多職種のチームが、術前・術中・術後に亘り、患者さんの安心安全な回復を支えます。
- 日帰り手術、短期入院手術にも対応します。6床のリカバリベッドを配置し、手術患者さんの当日入院、当日退院が可能です。
- 手術室、GICUと隣接配置することで、患者さんの負担軽減と麻酔業務の効率的な運用を図ります。

急性期医療の効果を高める集中リハビリテーション病棟

- 集中リハビリテーション病棟を設置しました。急性期にリハを集中的に行うことで、廃用症候群(生活不活発病)を予防し、早期の活動自立と社会復帰をめざします。回復期リハ病棟保有病院への転院後や、在宅に戻った後の生活機能向上に高い効果が見込めます。
- 新病院では手術件数の増加や重症患者さんの増加が想定されます。そのような患者さんを受け入れ、高度急性期病院として役割を果たしていく上でも、大変重要な役割を担っています。